

【資料 1】

1. 平成 27 年度 活動報告

1.1. 委員会について

平成 27 年度は下記の体制にて活動しました。

委員長: 羽田 陽一 (電通大)

副委員長: 岩谷 幸雄 (東北学院大), 水町 光徳 (九工大)

幹事: 島内 末廣 (NTT、会計担当), 堀内 俊治 (KDDI 研、企画担当)

幹事補佐: 小山 翔一 (東大)

委員: 青木 直史 (北大), 浅野 太 (工学院大),

荒木 章子 (NTT), 大谷 真 (京大),

小野 一穂 (NHK), 亀岡 弘和 (東大/NTT),

木村 敏幸 (東北学院大), 近藤 和弘 (山形大),

齊藤 望 (アルパイン), 鮫島 俊哉 (九大),

武岡 成人 (静岡理工科大), 立蔵 洋介 (静岡大),

苮木 禎史 (熊本大), 戸上 真人 (日立製作所),

中島 弘史 (工学院大), 中山 雅人 (立命館大),

西浦 敬信 (立命館大), 西野 隆典 (三重大),

西村 竜一 (NICT), 宮部 滋樹 (筑波大),

三好 正人 (金沢大), 渡邊 祐子 (東京電機大)

※敬称略・五十音順

1.2. 研究会について

平成 27 年度は全 7 回の研究会を開催しました。

開催月日、開催地、テーマ、共催、講演件数、頁数および参加者数は下表の通りです。このうち、10 月は応用音響研究会としては休会し、電気音響研究会と聴覚研究会との共催で、初めて海外で開催しました。このため、全 7 回の内訳は電気音響研究会・応用音響研究会が 6 回、電気音響研究会のみが 1 回となります。なお、合計には 10 月の電気音響研究会のみの件数(※11 件)は含めていません。

開催月日		開催地	テーマ (一般は省略)	共催 (電気音響研究会・ 応用音響研究会は省略)	件数	頁数	参加者 数
月	日						
4		休会					
5		休会					
	(23) (24)	(電気通信大学)		(※情報処理学会音楽情報 科学研究会音学シンポジウム に協賛)			
6		休会					
7	3	電気通信大学	インタラクティブ取 音・再生(※デモセ ッションを実施)		9	50	52
8	3	東北大学	応用／電気音響, 聴覚	日本音響学会聴覚研究会	14	82	44
	4	片平キャンパス					30

開催月日		開催地	テーマ (一般は省略)	共催 (電気音響研究会・ 応用音響研究会は省略)	件数	頁数	参加者 数
月	日						
9		休会					
10		休会		(※応用音響研究会のみ)			
	23 24	国立清華大学	電気音響, 聴覚	日本音響学会聴覚研究会 (※電気音響研究会のみ)	※11		
11	12 13	熊本大学 黒髪南キャンパス	異種メディア融合, コンテンツ処理, メ ディア検索, 電子 透かし	マルチメディア情報ハイディ ング・エンリッチメント研究会	16	92	40 33
12	11 12	金沢大学 サテライト・プラザ	学生セッション(※ 電気音響研究会学 生研究奨励賞を選 奨)		15	73	40 36
1	28 29	関西大学 千里山キャンパス	応用/電気音響, 超音波	<音響・超音波サブサイエ ティ合同研究会> 超音波研究会と併催	11	68	50 58
2		休会					
3	28 29	別府国際コンベン ションセンター	応用/電気音響, 音声, 信号処理	音声研究会 信号処理研究会 IEEE SPS TJC/KC/SC	71	396	129 110
合計					136 (130)	761 (703)	622 (599)

括弧内は昨年度の合計

また、下記に過去 4 年間の講演件数および参加者数の変遷を示します。

年度: 件数(平均件数/開催日数) / 参加者数(平均参加者数/開催日数)(開催回数)

平成 23 年度: 129 件(8.6 件/15 日) / 591 名(39.4 名/15 日)(9 回)

平成 24 年度: 150 件(9.4 件/16 日) / 676 名(42.3 名/16 日)(9 回)

平成 25 年度: 128 件(9.1 件/14 日) / 608 名(43.4 名/14 日)(9 回)

平成 26 年度: 130 件(10.0 件/13 日) / 599 名(46.1 名/13 日)(8 回)

平成 27 年度: 136 件(12.4 件/11 日) / 622 名(56.5 名/11 日)(6 回)

今年度は、開催回数を更に絞り込みました。具体的には、講演申込が少なくなる傾向の 4、5、6 月を休会とし、前年度は休会とした 7 月に東京で開催しました。この 7 月は、インタラクティブ收音・再生というテーマを設定し、このテーマに造詣の深い 3 名の方々の招待講演を企画するとともに、講演に付随したデモンストレーションを実施する 1 時間のデモセッションを設け、募集しました。結果として、講演 9 件のうち 4 件のデモンストレーションが実施され、盛況な研究会となりました。なお、5 月は前年度に引き続き、情報処理学会音楽情報科学研究会音学シンポジウムに協賛しました。また、12 月は前年度に引き続き、学生セッションを実施しました。今年度より、電気音響研究会学生研究奨励賞を選奨し、2 名の方に授与しました。さらに、3 月は当会が主幹事となり、電気音響研究会・応用音響研究会・音声研究会・信号処理研究会および IEEE SPS TJC/KC/SC 共催で、恒例の研究会を実施しました。件数、頁数および参加者数ともに過去最大の大盛況な研究会となりました。加えて、10 月は初めて海外で開催し、招待講演 5 件を含む 11 件の講演となりました。以上、前年度と比較すると、参加者数は約 4%増加し、1 日あたりの平均では件数および参加者数ともに約 23%増加しており、更に密度の高い研究会となりました。

### 1.3. 研究発表会および大会について

例年通り、2 回の日本音響学会秋季および春季研究発表会は前年度に引き続き盛況となりました。下記に講演件数を示します。

2015 年秋季:123 件(うちポスター81 件、共催を含む)

2016 年春季:138 件(うちポスター89 件、共催を含む)

合計:261 件(うちポスター170 件)

講演件数は、前年度の合計 279 件と比較して、18 件減少しました。2015 年秋季の講演件数の減少が影響しました。前年度に引き続き、聴覚分野との合同セッションを設けました。今年度は電気音響分野としてのスペシャルセッションは企画せず、他分野のスペシャルセッションに共催しました。また、講演の 6 割強はポスター講演に割り当てました。これにより、オーラル講演に割り当てる時間枠を確保できましたが、今後、スペシャルセッションなどを企画する場合は、同時間枠を確保できるかを十分に検討したうえで、立案する必要があると考えられます。

加えて、電子情報通信学会ソサイエティ大会および総合大会は、下記の講演件数となりました。

2015 年ソサイエティ大会:6 件

2016 年総合大会:18 件

合計:24 件

前年度の 29 件と比較して、5 件減少しましたが、ソサイエティ大会 5 件前後と総合大会 15 件前後となるおよそ例年通りの件数で推移しています。

### 1.4. 今後の検討課題

#### 1.4.1. 講演件数と参加者数の持続的確保

講演件数と参加者数の持続的確保のためには、魅力的な企画が必要です。このため、幹事団と専門委員とが連携した企画 WG を立ち上げ、活動に着手しています。来年度は、研究会や大会だけでなく、論文誌の編集委員と連携し、小特集号の企画を含めた企画の具体化を図っていきます。

#### 1.4.2. 専門委員会の定例化

専門委員の方々からの忌憚のない意見をよりタイムリーに運営に反映できるよう、研究発表会に併せて年 1、2 回開催していた専門委員会を、研究発表会と研究会に併せて年 3～4 回程度に、定例化することを検討しています。これまでに、研究会の座長を委嘱するなど、研究会と専門委員会に参加しやすくなる状況を図りつつあります。引き続き、研究会の活性化に寄与し得る、運営の在り方を議論していきます。

## 2. 平成 28 年度 活動計画

### 2.1. 委員会について

平成 28 年度は下記の体制にて活動する予定です。

委員長: 水町 光徳 (九工大)

副委員長: 羽田 陽一 (電通大), 島内 末廣 (NTT)

幹事: 堀内 俊治 (KDDI 研、会計担当), 渡邊 貫治 (秋田県立大、企画担当)

幹事補佐: 武岡 成人 (静岡理工科大), トレビーニョ ホルヘ (東北大)

委員: 青木 直史 (北大), 荒木 章子 (NTT),  
 岩谷 幸雄 (東北学院大), 大谷 真 (京大),  
 小野 一穂 (NHK), 亀岡 弘和 (東大/NTT),  
 木下 慶介 (NTT), 木村 敏幸 (東北学院大),  
 小山 翔一 (東大), 近藤 和弘 (山形大),  
 鮫島 俊哉 (九大), 杉本 岳大 (NHK)  
 立蔵 洋介 (静岡大), 苮木 禎史 (熊本大),  
 戸上 真人 (日立製作所), 中島 弘史 (工学院大),  
 中山 雅人 (立命館大), 西浦 敬信 (立命館大),  
 西野 隆典 (三重大), 西村 竜一 (NICT),  
 藤坂 洋一 (リオン), 森川 大輔 (北陸先端大),  
 宮部 滋樹 (筑波大), 三好 正人 (金沢大),  
 渡邊 祐子 (東京電機大)

※敬称略・五十音順

### 2.2. 研究会について

平成 28 年度は全 7 回の研究会を開催する予定です。

開催月日、開催地、テーマ、共催は下表の通りです。具体的には、前年度は休会とした 5 月を復活させ、音響教育調査研究委員会との共催での実施を予定しています。なお、同 5 月は前年度に引き続き、情報処理学会音楽情報科学研究会音学シンポジウムに協賛し、日程を連続させる計画です。また、7 月は東海地区にて、加えて、10 月は聴覚研究会と音楽情報科学研究会との共催で、招待講演と学生セッションを合宿形式での実施を予定しています。その他の月は例年通りを予定しています。

開催月日		開催地	テーマ (一般は省略)	共催 (電気音響研究会・応用音響研究会は省略)
月	日			
4		休会		
5	20	千葉工業大学 津田沼キャンパス	応用／電気音響, 音響教育	日本音響学会音響教育調査研究委員会
	(21) (22)	(東海大学 高輪キャンパス)		(※情報処理学会音楽情報科学研究会音学シンポジウムに協賛予定)
6		休会		
7	7 8	ヤマハ 豊岡工場		

開催月日		開催地	テーマ (一般は省略)	共催 (電気音響研究会・応用音響研究会は省略)
月	日			
8	9 10	東北学院大学 多賀城キャンパス	応用／電気音響, 聴覚	日本音響学会聴覚研究会
9		休会		
10	- -	国民宿舎能登小 牧台(七尾)	学生セッション	日本音響学会聴覚研究会 情報処理学会音楽情報科学研究会
11	17 18	コンパルホール (大分)	異種メディア融合, コンテンツ処理, メ ディア検索, 電子 透かし	マルチメディア情報ハイディング・エンリッチメント研究 会
12		休会		
1	- -	同志社大学	応用／電気音響, 超音波	<音響・超音波サブソサイエティ合同研究会> 超音波研究会と併催
2		休会		
3	- -	未定	応用／電気音響, 音声, 信号処理	音声研究会 信号処理研究会 IEEE SPS TJC/KC/SC

### 2.3. 研究発表会および大会について

例年通り、日本音響学会秋季および春季研究発表会および電子情報通信学会ソサイエティ大会および総合大会のプログラム編成に関わる予定です。

以上